

○再出発、「民進党」 国民とともに進む

民主党と維新が合流して、新しい党「民進党」として再出発します。この合流は、さらなる野党結集に向けての第一歩です。この合流が、安倍政権の暴走、自民党の一人勝ちを阻止して、与野党が対等に競い合い、再び政権奪取への挑戦を可能にする基盤をしっかりと作ります。「民進党」は、これまでの民主党の理念を受け継いで、国民（個人）一人ひとりを大切に、多様な価値観や生き方、人権が尊重される自由な社会、共生社会を基本にした福祉国家、次世代への責任を果たす政策を実現することをうたっています。

アベノミクスの評価後退と世界経済の失速で、消費増税の先延ばしに向け、安倍政権がその地ならしを始めてきたようです。安倍総理の周辺では、増税の先延ばしを前提に、憲法改正も視野に入れて、一挙に衆参同日選挙に踏み切るのではないかと、憶測が飛んでいます。だからこそ、今、それぞれの選挙区に候補者を擁立し、しっかりと足元を固めていくことです。

○朝鮮半島有事を考える

北朝鮮の、周辺国に対する挑発が激しくなっています。韓国では、テロ攻撃への備えや、突発的な局所の軍事衝突などの可能性が高まり、朴政権はその対応策に神経を尖らせています。北の核やミサイル実験に対し、国連が厳しい制裁決議をし、米韓合同軍事演習も大規模に行っている中で、北は、再びミサイル発射で威嚇し、さらなる核実験の可能性がささやかれています。

この際、私は、今後の日本の対応を整理しておかなければならないと思っています。去年の安保関連法案の議論では、委員会質疑などで、朝鮮半島有事の際のアメリカ軍に対する自衛隊の支援の中身を質しました。政府は、「支援の中身については、その時その時の状況を総合的に判断して決断する」としか答えていません。無責任極まります。しかし、最近の朝鮮半島の情勢を見ると、現状の、行き当たりばったりの姿勢は許されません。そこで私は、朝鮮半島情勢の緊迫度に応じた各ステージにおいて、法律の範囲で対応できる具体的な内容をはっきりさせる目的で、質問趣意書を提出します。考えられる各ステージとしては、①北との非難の応酬、核実験、ミサイル発射実験など、現在の状況 ②半島の緊張が高まり、韓国内に、テロや局所的な軍事衝突が出現している状況 ③南北両国が軍

の戦闘配備態勢を完了して武力衝突を前提に対峙 ④北朝鮮のテロやミサイル攻撃が始まりアメリカが空爆などで応戦 ⑤アメリカを含む両陣営の全面戦争などです。それぞれの状況の中で、アメリカに要請されて法的に対応可能な範囲をはっきりさせることと、日本独自の判断でできる軍事行動があるとすれば、それがどういう条件下になるのか、政府の見解を聞くことにしています。答弁書では、私たちの考えている「自衛隊の行動範囲」よりかなり広い範疇で、法律の改正が行われたということが、分かってくると思います。

○移民問題を日本の課題に

アメリカの大統領選挙では、共和党のトランプ候補が善戦しています。争点の一つに、移民問題があり、「メキシコ移民は、麻薬や性犯罪の元凶だ。皆、追い返す。メキシコの費用負担で、国境にフェンスをつくる。」と、演説しています。こうした極端な移民排斥議論に対し、民主党のクリントンやサンダースだけでなく、共和党の候補者も「移民は、アメリカ社会のダイナミズムと成長を支えてきた。やみくもに排斥するのは間違いだ。シリア難民に対しても受け入れ枠を作る」と、反論しています。

日本はというと、技能実習の修正法案や外国人建設労働者の枠の拡大、外国人介護人材の受け入れ枠の創設、留学生の受け入れや就職の拡大など、外国人の受け入れ方について、法改正がなし崩し的に行われています。一方で、安倍総理は、「これは、移民ではありません。」を常套句にしています。

外国人労働者の問題も移民問題の一つとして考えるべきです。私は、総合的な「移民政策基本法」を作り、単純労働を中心とした出稼ぎ労働者を2国間条約を前提に総量規制し、解禁すべきだと思います。同時に、彼らの人権を守る規定と、社会統合に向けた社会の仕組み作りを法的に担保する時にきていると思います。議連を中心に、具体的な法案のたたき台を作り始めています。

○民進党フェスティバル 2016

恒例のフェスティバルを開催させていただきます。皆様のご参加、お待ちしております！

日時 4月16日(土) 13:30~

場所 鈴鹿市ふれあいホール(鈴鹿市南玉垣町6600)

お問い合わせは

民進党三重県第2区総支部 電話 059-381-3515 まで